

2017.10.13.Fri-10.31.Tue [www.diversity-in-the-arts.jp/moto](http://www.diversity-in-the-arts.jp/moto)

[会場]スパイラルガーデン(スパイラル1F)

[開館時間]11:00-20:00\* [入場料]無料

[主催]日本財団 [制作]一般財団法人 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS  
[監修]NPO法人アーツインシアティヴトゥキョウ[AIT/エイト]

\*10月13日(金)は18:00まで  
会期中無休

at SPIRAL GARDEN (SPIRAL 1F)  
11:00-20:00 / FREE ENTRANCE  
\*Open until 18:00 on 10.13.Fri  
OPEN EVERYDAY



Koichi Yasuhara



Rikako Kawauchi



Chiharu Shimizu



Masataka Mizuuchi



Masaki Mori



Sayaka Teraguchi



Ryunosuke



Nao Matsunaga



Hideo Furutani

Museum of Together



Satoru Aoyama

どんな人にもひらかれた、アクセシブルな美術館



Kazuko Komatsu

Mizunoki Archives



Christian Hidaka



Chiaki Shimizu



Emi



Yuki Fujioka



Masahiko Tsuchiya



Peter McDonald



Fumito Urabe



Kayo Horie



Nobuko Tsuchiya

[日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展]

ミュージアム・オブ・トゥギャザー展



Yoshihiro Watanabe



本資料に関するお問合せ: 日本財団 コミュニケーション部 飯澤幸世

TEL: 03-6229-5131 FAX: 03-6229-5130 MAIL: pr@ps.nippon-foundation.or.jp

展覧会に関するお問い合わせ: ミュージアム・オブ・トゥギャザー展 事務局 / 一般財団法人 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 内

TEL: 03-5577-6750 FAX: 03-5577-6628 MAIL: moto@diversity-in-the-arts.jp

## ■ 開催概要

会期: 2017年10月13日(金)～31日(火)  
開館時間: 11:00～20:00/会期中無休 ※10月13日(金)は18:00まで  
会場: スパイラルガーデン(スパイラル1F)  
107-0062 東京都港区南青山 5-6-23 Tel 03-3498-1171 <http://www.spiral.co.jp/>

アクセス: 東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線「表参道駅」B1 出口前もしくは B3 出口より渋谷方向へ1分。※B3 出口にはエレベーター・エスカレーターがあります。

入場料: 無料

主催: 日本財団

制作: 一般財団法人 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

監修: NPO 法人アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]

企画協力: スパイラル

会場協力: 株式会社ワコールアートセンター

## ■ 展覧会チーム

キュレーター: ロジャー・マクドナルド、塩見有子 [AIT/エイト]

会場構成: アトリエ・ワン

展覧会グラフィック: 橋詰 宗

エディトリアル: 石田エリ

ラーニング企画・運営: NPO 法人 エイブル・アート・ジャパン

ラーニング協力: 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ、美術と手話プロジェクト、森美術館

## ■ 展覧会特別フードメニュー

野村友里 (eatrip)、長田佳子 (foodremedies)

## ■ リサーチ・キュレーターズ

赤荻 徹 (アトリエ・エー)、大内 郁 (アーツカウンスル新潟)、岡部兼芳 (はじまりの美術館)、  
岡部太郎 (たんぽぽの家)、奥山理子 (みずのき美術館)、千葉真利、津口在五 (鞆の津ミュージアム)、  
松本志帆子 (藁工ミュージアム)、森岡督行 (森岡書店)、山下完和 (やまなみ工房)

■ 協力: MIZUMA ART GALLERY、社会福祉法人やまなみ会 やまなみ工房、GALLERY SIDE 2、  
WAITINGROOM、一般財団法人たんぽぽの家、社会福祉法人わたぼうしの会、アトリエ・エー、  
SCAI THE BATHHOUSE、広島県立広島中央特別支援学校、株式会社愉快 studio COOCA、  
社会福祉法人大和会 大和高原太陽の家、社会福祉法人パレット会 パレットたつの、みずのき美術館  
(順不同)

## ■ 公式ウェブサイト(URL: <https://www.diversity-in-the-arts.jp/moto>)

制作: 萩原俊矢、三浦早織

協力: Bmaps プロジェクト(日本財団 CANPAN プロジェクト/株式会社ミライロ)

バリアフリー共有アプリ「Bmaps(ビーマップ)」と連携しアクセス情報の提供を行います。会場から出た後も楽しめるよう会場周辺の飲食店などの情報も公開します。

## ■ 企画趣旨

日本財団は、誰もが参加できるインクルーシブな社会の実現を目指し、障害者のアート活動を中心に「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS (ニッポンザイダン・ダイバーシティ・イン・ジ・アーツ)」として、多様性の意義と価値を広く伝え、<sup>えっきょう こうさく こうかん かんき</sup>越境や交錯、交歓の喚起を導くプロジェクトに取り組んでいます。

展覧会やフォーラムの開催、作品の収蔵や作品貸出、積極的な情報発信などの多彩な取り組みを通して、多くの人々が参加者となり、さらなる新たな担い手や企てが生まれるよう、東京オリンピック、パラリンピックが開催される2020年に向けて、複数の企画を実施いたします。

「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展 ミュージアム・オブ・トゥギャザー」は、当プロジェクトとして開催する初の企画展です。多様な立場からそれぞれの専門性や考えをもつ展覧会チームを編成し、議論を重ねながら準備を進めてきました。本展覧会が、新たな出会いの機会となり、多くの方々に関心や気付きをもたらし、お楽しみいただけましたら誠に幸いです。

主催者  
日本財団

## ■ 展覧会の見どころ

本展覧会「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 企画展 ミュージアム・オブ・トゥギャザー」は、「ACCESSIBILITY(アクセシビリティ)」と「LEARNING(ラーニング)」を全体に共通するキーワードとしています。

多くの人々に開かれた展覧会を目指して、アクセシビリティを高めること、また対話やコミュニケーションを通して、双方向からつながりや学びを深めるラーニングのあり方を問うこと、この二点が本展覧会の基本姿勢です。アートを通じて、世代やコミュニティ、専門性や領域を越えた人々が、さまざまな知識や経験を共有し合い、「学び」をより深めるため、企画の初期段階から展覧会関係者や障害のある当事者の視点から議論し、検証と実践を重ねてきました。

鑑賞者が展覧会との関係性を主体的に捉え、作家や作品と双方向からつながることのできる方法とは何かを「ART(アート)」「ARCHITECTURE(アーキテクチャー)」「ACCESS ART PROGRAM(アクセス・アート・プログラム)」の3つの側面から提案します。

### ○ART(アート)

本展では施設やアトリエ、個人宅やスタジオなど、さまざまな制作環境から生み出される作家たちの作品を一緒に展示することで、新たな関係性を導き出すことを目指しています。また、“アート”を心理的あるいは精神的に安定した状態をもたらす“道具”として捉え、その役割や機能についてアプローチします。

### ○ARCHITECTURE(アーキテクチャー)

本展ではあらゆる人がアクセス可能な展示構成のあり方を議論し、障害のある当事者と共に会場検証を実践することで、アクセシビリティに考慮したデザインの提案と実現を目指します。

### ○ACCESS ART PROGRAM(アクセス・アート・プログラム)

本展では参加者の一人ひとりにさまざまな問いを投げかけていきます。参加者の主体的な関わりを大切にし、“アート”を通して得た感動や発見、新しい知識や疑問を、共に寄り添いながら考え、共有することを目指します。会期中は障害のある人となない人が共に楽しめる参加型の鑑賞プログラムを実施し、参加者が多方向から作品や展覧会と繋がる場を提供します。

## ■ キュレーターズ・メッセージ

「ミュージアム・オブ・トゥギャザー」展は、22の作家による作品と、資料や模型などのアーカイブから構成する期間限定の美術館です。この展覧会に参加している作家たちは、それぞれにまったく異なる環境で生活をし、あるとき何かのきっかけによって作品をつくりはじめ、一人ひとり異なる感情や考えのなかで制作を続けています。

たとえば、ギャラリーに所属し、プロのアーティストとして活動をする人。周囲のサポートを得ながら障害者支援施設のアトリエで、または自宅で制作をする人。作品をつくる時、美術の歴史を意識する作家もいれば、そうしたことに無関心で、ただ制作に集中することで、心のバランスを保つことができるという作家もいます。さらには、作品の行き先もさまざまで、アート・マーケットで取引されて人の手に渡るものもあれば、完成と同時に作家自身の興味がなくなり、捨てられてしまうものもあります。

これらの多種多様な作家たちを結びつけているものは何かと言えば、「つくりたい」という欲求。身体の内からどうしてもなくわき起こって、何かをつくらずにはいられないような、自我を超えた行為です。アートとは、絶望や快楽、孤独や欲望、そして変性意識状態など、作り手の内面をただよう激しい感情のゆらぎの内から生まれているのです。

そこで、この展覧会では、アートを心理的あるいは精神的に安定した状態を生み出し、その状態を維持するための能動的な道具であると捉えてみることにしました。美術教育を受けていない人たちによる“アウトサイダー・アート”、あるいは「純粋な」「生な」といった言葉で括られる“アール・ブリュット”の現場では、アートなどの表現活動が障害のある人たちにとって精神の安定をもたらすものであるということは、よく言われていることです。しかし、これは彼らに限ったことではありません。古来の宗教芸術から、近・現代までのあらゆるアート表現に共通してみることのできる、はっきりとした輪郭を現すことのない「スピリチュアリティ(精神世界)」。それこそが、すべての芸術表現の根底に横たわっているものだと考えているのです。

そして、この“道具としてのアート”は、作家だけに限ったものでもありません。作品を注意深く鑑賞していくと、さまざまな感覚や欲求が自分の内側から自然と生まれてくるという体験を得る人もいるでしょう。この展覧会では、会場構成などいたるところに鑑賞者が能動的に展覧会に参加できる工夫をこらしました。

アートファンのみならず、こうした場に足を運ぶことを躊躇してしまう方たちにも鑑賞に来ていただける展覧会にするにはどうすべきか。また、その取り組みが今後のモデルとなるには、どんな新しいチャレンジが必要なのか。企画のはじまる段階から議論を重ねてきました。視覚障害のある方、聴覚障害のある方、車椅子の方たちにとって、鑑賞体験をより豊かなものにしていくには。または、環境や身体的理由から実際に会場へ足を運ぶことのできない人たちにも鑑賞体験をもたらす方法はあるのだろうか。アクセシビリティを高め、より多様な人々が気持ちよく鑑賞できる場にするためのアイデアを、当事者の方たちと意見交換をしながら検証し、実践しています。

会場のデザインやアクセス・アート・プログラムなどを通して作り手の世界へと入り込み、より多くの鑑賞者の心のなかで作品同士が共鳴し、関係を結び合う。道具としてのアートの実験に、みなさんもぜひ参加してみてください。

ロジャー・マクドナルド  
塩見有子

## ■ 展覧会チーム

### ロジャー・マクドナルド

アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]副ディレクター。  
東京に生まれ、幼少よりイギリスで教育を受ける。ケント大学にて国際政治を学び、神秘宗教学(禅やサイケデリック文化)を修士課程で研究した後、美術理論にて博士号を取得。『アウトサイダー・アート』を執筆したロジャー・カーディナル氏の元で学ぶ。1998年よりインディペンデント・キュレーターとして展覧会を企画。2001年、NPO法人AITを仲間と立ち上げ、オルタナティブなアート学校MADのプログラムディレクターに就任。「横浜トリエンナーレ2001」(2001年)アシスタントキュレーター、「シンガポール・ビエンナーレ2006」(2006年)キュレーター。国内外の美術大学で2003年から非常勤講師。2013年に長野県佐久市に拠点を移し、実験的な個人美術館「フェンバーガーハウス」をオープンし、館長を務める。日本で初の英国式「チャトニー」(チャツネ)を長野で妻と生産して、販売中。



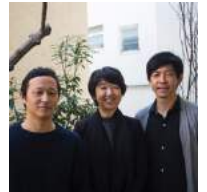
### 塩見 有子

アーツイニシアティヴトウキョウ[AIT/エイト]ディレクター。  
東京生まれ。学習院大学法学部政治学科卒業後、イギリスのサザビーズインスティテュートオブアーツにて現代美術ディプロマコースを修了。帰国後、ナンジウアンドアソシエイツにて国内外の展覧会やアート・プロジェクトのコーディネイト、コーポレートアートのコンサルタント、マネジメントを担当。2002年、NPO法人AITを立ち上げ、代表に就任。AITでは、アーティストやキュレーター、ライターのためのレジデンス・プログラムや現代アートの教育プログラムMADを始動させたほか、メルセデス・ベンツ日本やマネックス証券、ドイツ銀行、日産自動車などの企業との連携事業を含む、企画やマネジメント、組織運営を行う。2005年～2006年にかけて東京芸術大学非常勤講師を務めたほか、アワード等の審査にも携わる。



### アトリエ・ワン

1992年に塚本由晴(1965年神奈川県生まれ。東京工業大学大学院教授)と貝島桃代(1969年東京都生まれ。筑波大学准教授。ETHZ prof, Architectural Behaviorology)により設立された。住宅、公共建築、駅前広場などの設計に携わる傍ら、「メイド・イン・トーキョー」「ペット・アーキテクチャー」などの建築を軸とした都市の調査を多数行っている。2015年から玉井洋一(1977年愛知県生まれ。2004年東京工業大学大学院修士課程修了。2004年アトリエ・ワン)がパートナーとなる。今回の展示では岩田祐佳梨(NPO法人チア!アート理事長)および筑波大学貝島研究室と協働している。



### 橋詰 宗

1978年広島県生まれ。武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。英国ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(RCA)コミュニケーションアート&デザイン修士課程修了。女子美術大学デザイン・工芸学科「ヴィジュアルデザイン専攻」非常勤講師。さまざまな領域のアートディレクション、ブックデザイン、ウェブデザイン等を手掛ける一方、『D♥Y』『HUMAN PRACTICE』『何に注目すべきか?』『紙と東見本』( )も( )も( )も展』など、実践と着目点をコンセプトにしたワークショップ、スクールや展覧会ディレクションを手がける。



### 石田 エリ

編集者・ライター。ライフスタイル誌『ecocolo』編集長を経てフリーランスに。食と旅、アウトドアなどのテーマを中心に編集・執筆活動を行う。2017年3月よりスタートした『日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS』のメディアプランと編集業務を担当。ほか、雑誌、書籍、地方行政や企業の広告ツールなど、多数を手がける。



### 柴崎 由美子

NPO法人エイブル・アート・ジャパン代表理事。  
宮城県仙台市生まれ。東北芸術工科大学芸術学科卒業。1997年より福祉施設で障害のある人たちの表現活動にかかわる。障害のある人とコミュニティのための「たんぼぼの家アートセンター-HANA(奈良)」のディレクター(2004年4月～09年3月)を経て、障害のある人のアートを社会に発信し仕事につなげる「エイブルアート・カンパニー」設立・事務局(2007年～)、障害者の芸術活動支援モデル事業を宮城で実践(2014年～)。障害のある人とともにプログラムを実践していくこと、東日本大震災からの復興支援活動がライフワーク。



### 加藤 育子

スパイラル ギャラリー担当チーフキュレーター。  
東京大学大学院人文社会系研究科修士課程修了後、スパイラル/株式会社ワコールアートセンター入社。ギャラリー担当ならびに同チーフを経て、2008年より現職。現代美術の展覧会やアート・プロジェクトの企画制作業務をベースに、館内での新規プログラム開発などを担当。担当した主な展覧会に「棚田康司展『Oとー』」(2011年)、「Boutique! -ファッションって何?アートと考える、その姿。」(2014年)、「小金沢健人展『煙のゆくえ』」(2016年)など。

